

【泉区】令和3年第1回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和3年 2月 5日 13時 58分 ～ 15時 41分
場 所	泉区総合庁舎4階 4ABC会議室
出席者	<p>【座 長】横山 勇太朗 議員</p> <p>【議 員：3人】梶村 充 議員、麓 理恵 議員</p> <p>源波 正保 議員</p> <p>【泉 区：21人】深川 敦子 区長、鳥海 仁 副区長</p> <p>村田 二郎 福祉保健センター長</p> <p>竹田 良雄 福祉保健センター担当部長</p> <p>木我 陽子 福祉保健センター医務担当部長</p> <p>安達 秀昭 土木事務所長</p> <p>小林 修二 泉消防署長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和3年度泉区個性ある区づくり推進費予算案について 2 新型コロナウイルス感染症の影響について 3 「第4期泉区地域福祉保健計画」の策定状況について 4 第二次泉区読書活動推進目標（素案）について 5 その他
発言の 要 旨	<p>1 令和3年度泉区個性ある区づくり推進費予算案について</p> <p>麓議員：住むなら泉区の取組が、着実に進んでいると思うが、この間の泉区の人口動態がどうなっているのか教えてほしい。</p> <p>河村区政推進課長：人口については、平成23年の約15万5千人がピークであり、令和元年はピーク時から約4千人減少した約15万1千人。これまで、人口については社会増減、自然増減共にマイナスを記録しており、大幅に人口が減になるという傾向があったが、令和元年から少し状況が変わっている。令和元年は社会増減がプラス1、転入者が転出者を1人上回った。令和2年は速報値になるが、プラスで478となっており、社会増減だけを見ると、ここ2年はプラスに転じている。それまでの社会増減はマイナス250から300を記録しており、かなりのマイナス幅であったが、社会増減だけで見るとここ2年でプラスになってい</p>

る。一方で、自然増減については引き続きマイナス幅が大きく、トータルとしての人口増には至っていない。このプロモーション事業で泉区の人口減少をなだらかにするよう、そして、プラスに転じることへ寄与するように区役所一体となってやっていきたい。

麓議員：少しずつ効果が出ているのであればいい。相鉄・JR 直通線の利用もスタートした。新型コロナウイルスの影響もあるが、定住転入プロジェクトの効果はどの程度あったのか。何かの資料では、新型コロナウイルスの影響で、利用者がそこまで増えていないとも聞いている。直通運転が開始されたことで、泉区にとって効果があったのかどうか。何か調査をしていたら教えてほしい。

河村区政推進課長：定住転入促進事業での直接的な調査は実施していないが、区民の方々と話をする上での声としては「便利になった」、「時間の短縮につながった」という声も聞かれている。

麓議員：この後、相鉄・東急直通線の開通で新横浜へという流れや、泉ゆめが丘地区区画整備事業も着実に進んでいる。様々な効果をきちんと検証しながらこのプロモーションを進めてほしい。

麓議員：商店街振興支援事業について、福祉保健計画素案の中に「泉区の良さ」が記載されており、買い物がしやすいという文言があったが、泉区の商店街はどこも苦戦しているのではないか。予算勉強会の中で、経済局もプレミアム付き商品券の取組を支援していくとあったが、具体的に泉区の商店街としてこれまで以上のイベントだとか具体的な取組を見据えられているのかどうか。また、いっずんカレーの取組は自分も楽しませてもらっており、可愛いグラスも活用させてもらっている。イベントの結果はどうだったのか。

小澤地域振興課長：緊急事態宣言が出された中で、各商店街の会長と意見交換を行った。そこでは、商店街としてではなく、自身の店舗で精一杯で、自分の傘下の商店街に対して気が回っていない、といった声が聞かれた。また、飲食店については、優遇されているのではないかという声もいただいた。さらに、商店街の会費について、来年度は徴収しないと方向で考えていることや、飲食店でなくても 20 時閉店に協力していることが挙げられた。いずれにしても、終息するために皆で協力していきたいといった声が聞かれた。区としても、店舗で 500 円以上の買い物を

された方に特製エコバックをプレゼントする取組を年度内に行っていきたい。

さらに、いっずんカレーについて、去年はコロナ禍ではあったが、ご参加いただいた方にアンケートを実施した。皆さまからは好評で、「是非、来年もやってほしい」、「こういった取組はすごく良い」、「値段が少し高い」、「今後も応援していきたい」という声も聞かれた。区としても各商店会、商店街も含めて応援、支援をしていきたい。

麓議員：立場周辺は比較的人の流れも多いが、中田へ行くと人が少なくなっている。上飯田の辺りは、昼間はシーンとしている状況もある。泉区全体を見て考えてもらいたい。

麓議員：地域を支える ICT 活用推進事業について、知り合いの町内会長に ICT の導入について補正予算がついていると説明したが、疑問を持たれてしまい、周知が足りないと感じた。自分もそこまで ICT が得意な方ではなく、色々な人の手を借りてようやくできている。地域の課題の中にも「新たな手法を取り入れ支援をしていく」とあるが、具体的にどう考えているのか。

栗竹区政推進課地域力推進担当課長：ICT 活用推進事業は、資料にも記載があるとおり、4 課が共同でそれぞれが取り組んでいる事業であり、特に地域で活動されている方々に体験していただくところから始めていかなければ、「使ってよかった」と感じていただけないと思っている。資料にあるとおり、機器類を購入や講座の開催等を支援していくということで、地域の方々に実際に ICT 機器に触れ、ZOOM を使ったオンライン会議や、LINE 等を使ってスマートフォンを活用していただく場面を取り入れつつ、便利であることを感じていただける場を増やし、普及をさせたい。

麓議員：例として、単一自治会で ICT を活用した毎月の集まりをやっていきたい、となったときは、区役所が自治会館に出向いて教えてもらう、機器のセットをお願いできるということか。

栗竹区政推進課地域力推進担当課長：実際にセッティングすることはできるが、地域の方の話からは、若い世代でなくてもセッティングはできるといった声も聞かれている。また、年配の方でも長けている方はいるため、そういった方を通じてセッティング等をさせてもらい、体験して

いただくよう、色々な手段を使いながらやっていきたいと思う。

梶村議員：Web 会議について、区によっては区づくり市議員会議もオンラインで開催している区もあると聞いている。そういった部分を含めて色々と検討をしてもらいたい。

梶村議員：保育園の入所調整がほぼ決まったと思うが、泉区ではどのような状況だったのか。

竹田担当部長：現在、最終調整の前作業を行っている状況ではあるが、待機児童は出ない見込みだ。

梶村議員：第一希望や第二希望で大体入れているのか。

竹田担当部長：大体はどこかには入れていると聞いているところ。

梶村議員：ほかの区ではかなり厳しいところもあると聞いている。泉区ではそうではないのか。

竹田担当部長：そういったことは散見していない。

梶村議員：地域交通サポート事業について、前々から話しているが、中田さちが丘線がいよいよ開通する。中田さちが丘線ができることで、泉区は立場から戸塚斎場へ、緑園都市から旭区まで直線で行けるようになる。一方で、この区域はバス編成が難しい区域で、神奈中バスと相鉄バスが入り混じっており、なかなか難しいのは承知している。中田の人たちはスポーツセンターや老人福祉施設へ行きたい時に、現在は地下鉄で湘南台駅まで出て、弥生台駅まで行き、そこからバスに乗って行かなくてはいけない。行くのが嫌になってしまう。今は緑園都市から新橋、弥生台方面の循環バスを進めている。その流れで是非やってもらいたいかどうか。

河村区政推進課長：緑園地区の方からも同様の期待する声があることは、区としても承知している。バス路線の新設については、バスの運行事業者の収支や安全性を踏まえて判断する必要がある。区としても大きな交通網の整備で、転換期ととらえているため、地域の要望をしっかりと踏まえながら様々な角度から検討し、関係局と連携して、より利便性が向上するように進めていきたい

梶村議員：自分は神奈中バスも相鉄バスもよく知っているため、なかなか難しいのは承知している。来年度戸塚区では、ドリームランド方面と戸

塚駅を連節バスが走行する。道路の改装など、色々と大変だと思う。神奈中バスは連節バスを取り入れることで、バスの運転手不足を解消しているため、環状4号線のバスについて、見直しをしてもいいと言っている。必要に応じて、相鉄バスと神奈中バスを呼んで、きちんとしっかりやってもらいたい。

源波議員：梶村議員の発言に関連して、戸塚で始まる連節バスについて、路線の見直し等を行っていると言っている。戸塚区と泉区とで分けるのではなく、同じように考える必要がある。梶村議員と同じ意見だが、区局連携し、住民のニーズを掴みながら対応してもらいたい。

麓議員：令和3年度予算の中に、ふれあい“ザ”いずみ軽スポーツ大会の予算は計上されているのか。

塗師高齢・障害支援課長：令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い中止を行ったが、現時点で終息の見込みが立たないため、令和3年度は本大会を中止とし、泉ふれあいシールラリーに代え、障害の理解啓発を行っていく。

源波議員：地域を支えるICT活用推進事業について、昨今の状況を踏まえるとやらざるを得ない状況で、自身もアナログな人間だが何度か機会があった。ここ数日も連続し、30分おきに会議を行っており、すごく便利だなと感じた。一方で、顔見知りの人とのオンライン会議はスムーズに行えるが、知らない人同士の会議ではなかなかスムーズにいかない。用件や相手に合わせて電話やオンライン、直に会うことを使い分けていく必要があると感じた。オンラインで行うメリットとして、1つの場所で、色々な場所の人たちと短時間に多くの会議を開催することができたのは、よかった。オンラインと対面とを組み合わせるのはいいことだ。

深川区長：地域活動は対面し交流してというのが主流になると思う。それを継続しながら、一度あったことのある人であれば、電話や画面越しに安否確認するなど、色々と手法がある。そういった手法やツールを組み合わせながら地域をつなげていくことも区役所の役割と認識し、事業化させていただいた。我々も怖がらずにICTをいいとこ取りでやっていきたい。是非ご協力をお願いしたい。

横山議員：大至急お願いしたい。

源波議員：認知症の支援について、脳卒中の場合は脳卒中になってから障害等が出てくるが、認知症の場合は徐々に症状があらわれてくる。実際に色々な話を聞く中で、成年後見人の制度もあるが、とても煩雑になる。認知症は段階的に症状が徐々にあらわれてくるため、早期発見が難しい。そうすると、成年後見人との付き合いが大事になると同時に、家族がいち早く察知することが大事になってくる。認知症になってから行う財産の管理、家族信託や後見人への手続きはなかなか難しく、躊躇する方もいる。その辺りについて、検討していく必要があるのではないか。局にいう話だと思うが、区でも感じたことがあれば教えてほしい。

深川区長：家族信託は銀行や信用金庫が中心になる。認知症になる前から関わる場合は社会福祉協議会のあんしんセンターへの相談などが挙げられる。将来が心配な方は任意後見制度もある。認知症というキーワードだけでなく、高齢者の終活として、これから先どうやって高齢の方が生きていくか、もしも手帳など高齢・障害支援課の取組もある。区として啓発等に取り組んでいきたい。

竹田担当部長：家族会議を退職したらやってほしいと言っている。物忘れが激しくなり、何かあったときは、こうするという話を話し合ってもらいたい。地域ケアプラザやあんしんセンターからも周知したい。本格的に成年後見人制度を利用するとなれば、手続きの煩雑さがあると聞いている。区役所としても様々な方法を情報提供したい。

梶村議員：その通り、様々な方法がある。是非一括して周知して欲しい。

2 新型コロナウイルス感染症の影響について

梶村議員：新型コロナウイルスのワクチン注射について、命懸けでやらないとできない。4月からは施設は全部使えないと想定しなくてはいけない。それについて区長はどう考えるか。

深川区長：現在、健康福祉局のワクチン担当と随時調整を行っている。今想定されているのは、泉公会堂を中心に区内の施設で行うことで、調査をしているところ。ご指摘の通り、65歳以上の高齢者が約4万人以上いる中では、一定の期間、施設を借上げする形で実施をしていく。さら

には、それに従事する方を確保していかなくてはいけない。局が中心になって執行体制を検討しているが、区としても区医師会との調整など準備について応援しながらやっていきたい。

梶村議員：今の健康福祉局の体制だと、とてもではないが難しいのではないかと。今度の予算も、ワクチンに関する補正予算だけで250億円を計上している。大変な金額だ。ありとあらゆる方法を考えないといけない。人員についても、医師だけでは足りないことから、横浜市大のインターンにもアルバイトをお願いすることや、ボランティアにも手伝ってもらわなければ足りない。消防署の救急救命士は注射を打つことができるのか。

小林泉消防署長：救急救命士は医療行為の中でも限定行為しかできないため、注射はできない。

梶村議員：救命救急士は施設に待機しなくてはいけないと聞いた。泉区の救急隊は何隊いるのか。

小林泉消防署長：泉区は3隊いる。

梶村議員：各地でワクチン接種が始まると、救急隊は3隊で足りるだろうか。非常用救急車は何台あるのか。

小林泉消防署長：23台ある。

梶村議員：全部使えるのか。

小林泉消防署長：故障しているときもあるため、すべてが使えるとも限らない。

梶村議員：消防局へ言えばいいのだが、救急車の故障は困る。きちんと整備するようにしてほしい。

深川区長：いただいた懸念は区民の皆さまの懸念でもあるため、安心してワクチン接種をしていただけるような環境整備を区としても整えていきたい。

横山議員：救急車のドライバーは誰が運転してもいいのか。

小林消防署長：救急車も消防車も局内で研修を受け、資格を有した者でなければ運転は認められない。運転免許だけでいえば、普通自動車の免許があれば運転できるが、大型の消防車は大型自動車の免許が必要。

麓議員：ワクチン接種のやり方等が決まり次第、連絡がほしい。

陽性者が少し落ち着いてきたと思いたいところだが、応援体制を組み、パルスオキシメータを配布し、回収するだけでもかなりの時間を要したのではないか。特に陽性者が91人も出たときの体制人数がどれくらいだったのか。

岡本課長：総務課で2組の体制をとり、パルスオキシメーターの配布が必要な方の情報をもらい、各家庭を回った。療養期間が終了した方へ連絡し、回収を行った。

斎藤課長：泉区にはパルスオキシメーターが全部で90台あり、総務課の応援ですべて配送をし、全部で3回転したと記憶している。療養期間が開ける方からの回収と、届ける方へ消毒してからお渡しする対応を2人組みで行った。また、県の方では1月12日から40歳以上の方と基礎疾患のある方については、翌日にはバイク便でパルスオキシメータの配達が始まり、それと併用する形で、県の条件に当てはまらない方には区から配布するといった体制をとったため、パルスオキシメータの配布数として少し楽になった。また、県のバイク便は翌日の配達となることから、例として高齢の方で入院が決まるまで不安な方については、先んじて泉区の方から配ることを併用して行っている。

麓議員：努力に感謝したい。横浜市の新型コロナウイルスのホームページを見ると、陽性者とわかった方への聞き取りについて、メールフォームが設置されているが、残念ながら泉区は準備中のままだが、状況はどうなっているのか。

斎藤課長：ご指摘の通り準備中だが、比較的泉区ではメールフォームを利用しなくても聞き取りが迅速にできている状況が続いている。さらに、高齢者にはメールでの対応が難しいことから、聞き取りをする方が、非常に大事な情報になるため、できる限りは直接電話での聞き取りを続けていきたい。

麓議員：まさに自分もその話がしたかった。他区のメールフォームを見る限り、答える側、特に高齢者は大変だと思ったため、聞き取りを行っていくと聞いて安心した。ならば、準備中ではなく、別の書き方に改めるべきではないか。

斎藤課長：検討する。

梶村議員：泉区役所のなかで新型コロナウイルスに感染した人はいるの

か。

深川区長：記者発表等しているとおり、いる。ただし、職員は濃厚接触者にならないように対策をしているので、大きな支障は出ていない。また、先ほどの陽性者への聞き取りについて、泉区でもシステムはできており、市ホームページに反映させていく。

源波議員：区役所の応援体制の中で、保健師が18人とあるが、保健師が足りていない現状もある。多く採用するなどしないのか。実際に人員は足りているのか。

深川区長：人手は足りないといえば足りていない。理由としては、保健師も通常業務を最低限の内容にし、高齢・障害支援課やこども家庭支援課から応援に入り、ようやく体制がとれている状態。通常計画している業務、いわゆる区民の方に満足していただける100%の保健師の活動をしようとするのが現状。限られた人材をどのように配置して対応していくか、最低限、保健師がやらなくてはいけない業務に絞り、それ以外を事務職やその他の職種の人に応援に入ってもらい、泉区は何とか回っている状態。

横山議員：これから新型コロナウイルスのワクチン接種が始まると、夏以降にワクチン接種の有無でトラブルが起きるのではないかと危惧している。ワクチン接種をした際に接種をしたことがわかる何か配布するなど、明確なルール作りが必要になると考えるが、どうか。予算研究会の際に健康福祉局からは「接種カード」の発言があったが、そのカードが紙だと偽造されてしまう恐れがあるため、ある程度偽造や売買しにくいカードを配布してほしい。国がどうするかは不明だが、横浜だけでもいいので、今のことを念頭に置いて、カードの生産ラインの確保に向けて考えてほしい。局へも要望してほしい。

深川区長：健康福祉局がどのように考えているのか、カードについていただいた懸念事項を健康福祉局へ伝える。

横山議員：生産ラインに一番時間を要する。場合によっては店舗入店時に確認することを依頼するのであれば、早めの周知も必要になっていくことから、カード作成の生産ラインは接種前に稼働する必要があるため、早めに準備してほしい。

梶村議員：4万1千人に通知する案内を配布する方法は区役所で行うのか。それも決まっていないのか。

深川区長：健康福祉局で一括して行うが、現時点でワクチンがどれくらい確保できるか決まっていないため、接種計画を作ってから、一括で通知を作り、発送する。そのため、いつから始まるかなどの具体的なものはまだできていない。正式に決まったら説明させていただく。

3 「第4期泉区地域福祉保健計画」の策定状況について

麓議員：これは要望だが、推進の柱として、ケアラーのケアについての視点も入れてほしい。老々介護、Wケア、ヤングケアラーの人たちが繋がる場所が身近にあるといいと考えている。検討してほしい。

斎藤課長：貴重な意見の反映について、検討する。

4 第二次泉区読書活動推進目標（素案）について

源波議員：目標3に掲げている「区内の読書活動拠点の強化と連携に取り組む」とあるが、もう少し詳しく具体的に教えてほしい。

前川読書推進担当課長：図書館のデータから回答すると、図書館ではグループ貸出を行っており、泉区内で活動しているボランティア団体や施設へ1か月分まとめて30冊を貸し出している。その団体等が活動を行う上で本を活用し、ボランティアとして読み聞かせや施設内での貸し出しをしている。泉図書館は18館中16番目の入館者数で、あまり多くはない。しかし、グループ貸出の状況を見ると、グループ数は36、7あり、18区中6番目で、貸出冊数も昨年は2,883冊を記録しており、区内の読書活動は活発であるため、そうした活動を支援していきたい。

源波議員：是非、有機的に進めてほしい。

5 その他

梶村議員：緑園西小学校の跡地について、どうなっているのか。

河村区政推進課長：緑園の連合町内会長をはじめ、地域の代表と意見交換を行っている。財政局が令和2年12月に改訂した「用途廃止施設の活用・処分運用ガイドライン」に沿って進めていくことになっている。緑園西小学校が廃校になり、当該土地や建物の基本調査をきちんと行った後、どういった活用が想定できるかの分類を財政局中心に行い、その

後、地域の方との意見交換という流れで進めていく。現在は前段階の基本調査等を行っている状態。先ほど申し上げた庁内での整理に一定の期間を要するため、地域意見の収集・整理はもう少し先になる。

梶村議員：いきなり売却ということにはならないようにしてほしい。我々議員にも相談してくれるのか。

河村区政推進課長：いただいたご意見を踏まえながら進めていきたい。

梶村議員：立場地区センターの駐車場利用について、泉区休日急患診療所の跡地利用はいつ誰が決めたのか。

小澤地域振興課長：立場地区センターの駐車場は3台分、泉区休日急患診療所の共用部分の駐車場が20台分あった。今現在は、建物を取り壊しており、駐車台数は0台で全く使えない状態になっている。立場地区センターの駐車場を使いたいという声や1日10台利用があることを踏まえると、整備する必要がある。一部、地区センター横の泉区休日急患診療所の共用部分（鉄板部分）が、泉区が管理する土地であったため、それを付け替えることで駐車場にするための測量について市民局へ予算を計上している。今後の関係区、所管局と調整しながら、地域の皆さま、地権者の皆さま含めて利用方法について情報提供していきたい。

梶村議員：駐車場もいいが、地区センターのクーラー設置をなんとか対応してもらいたい。

梶村議員：関係局と地域振興課で調整してほしい。体育室のクーラーがない件についてもどうにかしてほしい。申し入れはしているのか。

小澤課長：ご指摘の通り、冷房が未設置で、泉区としても地区センターとスポーツセンター含め要望しているが、順番が回ってこない。引き続き働きかけをしていく。

梶村議員：深谷通信所跡地の道路について、いつから着手するのか。

矢口政策局基地対策課担当課長：道路については、連絡道路について検討することなど、予算は2千万円を計上していると聞いている。

梶村議員：その金額では測量もできないのではないかと。返還されたはいいが、国有地を横浜市が買い取る話はどうなっているのか。

矢口政策局基地対策課担当課長：道路と墓地は無償譲渡か貸付が定められている。公園については、面積の3分の1の有償譲渡が定められてい

るが、具体的な場所については、今後国と協議して決める。公園部分の50ヘクタールは、調整区域のため、単価は安いですが、50ヘクタールの3分の1の面積のため、相当な金額になる。また、取得の方法についても分割でできないかも含めて協議していきたい。

梶村議員：特別委員会で言えばいいのだが、通信所の撤去はどうなっているのか。いつまであるのか。なんとかしてもらいたい。

矢口政策局基地対策課担当課長：囲障区域については、無償譲渡もしくは、貸し付けの場合は、使用する方が撤去する。有償の部分は差額を減額するようになっている。その辺りも決まっていない。ご指摘の通り、我々も国の物であると認識しているため、国が撤去するのが筋だと思っている。これからも早く撤去するよう申し入れて協議していく。申し訳ないが、明確な時期は申し上げられない。

梶村議員：せっかく返還されても鉄塔を撤去しただけでは、囲障区域の囲いが残ったままのため、区民の方にも返還された実感がわかなくなってしまう。国の敷地内に野球のボールが入り込んでしまうと取りに行くことができない。鍵も開けてくれず、「何かあったら困る」とあるが、あるわけがない。何を考えているのか。

矢口政策局基地対策課担当課長：国の建物も古くなっており、蛇が出る等の苦情も来ている。なかなか中に入れてくれない。ボールの件は、我々も国の方に申し入れをし、どうやっていくかを個別に相談させてほしい。

梶村議員：早く実感の湧くようにしてもらいたい。返還されて何年になる。5年くらい経つのではないか。

矢口政策局基地対策課担当課長：平成26年6月に提供地が返還された。なかなか形として見えてこない、利便性が上がっていない。暫定利用のトイレの設置や通路の舗装で歩きやすくなったことや、防犯灯を設置して夜間も行きやすくなり、地元の方々にもそれについてはよくやったと言われるが、形にならないとも言われている。少しでも形になることで実感がわくように、十分に気を付けてやって欲しいと地元の方からも言われている。引き続きよろしくお願ひしたい。

横山議員：暫定利用でサッカー場ができたが、苦情などは出ていないか。

矢口政策局基地対策課担当課長：多目的広場は以前、草が生えていたがな

	<p>くなった。もともと農地で利用していたこともあり、細かい砂で、強い風が吹くと砂が大きく舞ってしまうことがあった。それに対しては、整備において自主整備・管理が条件であり、設置者で飛ばないように対策をしている。</p>
備 考	